


まつどし×せいこうとく  

**松戸市×晴耕雨読**



CONNECT *with* MATSUDO

 <a href="#">松戸市公式</a> 	 <a href="#">まつどやさしい暮らしラボ</a> 	 <a href="#">まつどDE子育て</a> 	 <a href="#">健康医療都市まつど</a> 
 <a href="#">松戸市ふるさと納税ふるさとチョイス</a> 	 <a href="#">松戸市観光協会</a> 	 <a href="#">松戸市公式 Twitter</a> 	 <a href="#">Youtube まっちゃんねる</a> 



松戸

MATSUDO

戸

眩しくて、熱いまち。

CONTENTS

SPECIAL FEATURE

04\_「やさシティ、まつど。」の魅力に迫る。

04\_なぜ、松戸市が選ばれたのか?

06\_注目せずにはいられない松戸市の教育とは?

08\_子育てCOLUMN

09\_松戸って身近で便利な街

カップルに聞く、松戸市の魅力。

10\_MATSUDO COUPLES

15\_松戸で見つける「生きがい」、松戸だからできる「やりがい」

16\_Matsudo | Creative City Project

18\_松戸自慢百科事典

20\_MATSUDO JOURNAL

22\_名勝散歩



日経DUAL「共働き子育てしやすい街ランキング2020」  
総合編第1位獲得

## なぜ、松戸市が 選ばれたのか？



松戸市お知らせキャラクター・まつま

松戸市には子育てを応援する  
やさしいサポートがたくさん！

保育環境の充実 ※2021年4月現在

仕事と子育て。これらを両立させたい誰もが不安に思うひとつが「待機児童問題」ではないだろうか。松戸市では、これを最優先課題として取り組んだ結果、2021年4月に6年連続待機児童ゼロを達成した。達成できた理由はどこにあるのか。

まず、市内には保育所（園）66園、幼稚園36園、認定こども園11園、小規模保育施設が103園ある。中でも、小規模保育施設の多さに注目したい。待機児童の大部分を占めるのは、0歳～2歳児。その児童の受け入れを進めるため、小規模保育施設の整備を進め、整備数は千葉県内で1位に。また、その場所にも嬉しい配慮が。市内23駅全ての駅前・駅ナカに設置し、毎日忙しい子育て家庭の通勤利便性にも配慮している。

また、「働いていても幼稚園」を希望する家庭にも嬉しいサポートが。小規模保育施設卒園後、それまでの就労時間や就労パターンを変えずに、幼稚園に通わせることができる。その仕組みとして、市内6カ所の駅前に、指定の幼稚園まで子どもを送迎する「送迎保育ステーション」を開設した。ステーションは最寄り駅から徒歩5分以内と利便性が良く、通勤途中でも時間をかけずに子どもを預けることができる。併せて、幼稚園での長時間預かり保育の実施も推進。「働いていても幼稚園」の教育が受けられる環境づくりを進めている。

### 病気がなったら…という不安にも寄り添う

「子どもに病気はつきもの」。そんな時にも行き届いた取り組みが。病児・病後児保育施設は市内に5カ所あり、病院と連携している。子どもが病気や病気の回復期で集団保育や家庭での保育が難しい場合でも、安心して預けられる場が松戸にはある。

また、23時まで診療の夜間小児急病センターも存在する。毎日18時～23時の間、中学3年生までを対象に、初期内科系疾患の受診が可能であり、市内の小児科医や小児の診療に慣れた医師が対応してくれる。その場で薬も処方されるので、急な発熱などの際にも安心だ。

### その他にもたくさんの支援が

働き方が多様化する中、「在宅勤務中に子どもを預かってほしい」「子どもの見える場所で落ち着いて仕事がしたい」といったニーズに対応すべく、託児機能付きコワーキングスペースを市内主要駅近くに開設。子育てと仕事の両立を支援している。

また、育児不安や負担を軽減することを目指している松戸市。3歳くらいまでの子どもと保護者が一緒に利用できる室内の遊び場「おやこDE広場」などが、市内に27カ所。「子育てコーディネーター」と呼ばれる相談員が常駐し、子どもを遊ばせながら子育て相談の場としても利用できる。さらに、親世帯からの育児サポートが受けられるよう親元近くに住まいを取得する際には、子育て世帯への補助金制度もある。



子育て世帯にも  
「やさシティ、まつど。」の  
魅力が溢れている。





タブレットPC=1人1台時代へ

「ICT<sup>※2</sup>」の活用が日常となる時代を生きる子どもたち。早い時期に情報活用能力を育むことも重要となっている。時には距離を越えてつながる学習を、また、時には自身の学習に必要な情報を収集する…ICTが、子どもたちの学びの姿も変えていく。誰一人取り残すことなく、一人ひとりに合った学びができるよう、ICTを活用した教育を進めている。

※2情報通信技術 (Information and Communication Technology)

いきいき子育て — 家庭教育から子どもが育つ —

松戸市教育委員会は、家庭教育にも積極的に取り組んでいる。子どもの発達段階に合わせた「家庭教育学級」や「家庭教育講座」などを開催。保護者同士が集まり、子育てや家庭教育について学んでいる。幼児の保護者向けには、東北大学・川島隆太教授監修によるパンフレットと動画「まつどっ子 未来のために今」を制作。これから子育てをスタートする方に役立つ情報も提供している。

まつどっ子 未来のために今▶



誰もが安心して過ごせる学校のために

松戸市では、全国でも類を見ない独自の「スクールソーシャルワーク事業」を展開。現在11名のスクールソーシャルワーカー(SSWer)が、日々子どもたちに寄り添いサポートしている。SSWerは、児童生徒や保護者などから毎日の生活の中で起きる困りごとや悩みを聞き、どうすれば解決できるかを一緒に考える福祉の専門職だ。学校や家庭・地域・行政等と連携・協力して、解決に向けて取り組んでいる。



配信元のクラス

2組さんはどうですか?

POINT!

授業は録画され地区内の小・中学校5校で共有。後で視聴したり、教員の研修教材としても活用が可能となっている。

配信先のクラス

市の取り組み×学校独自の取り組み=∞

それぞれ独自の取り組みで特色のある教育活動を行っている市内の公立小・中学校。例えば松戸市立根木内小学校では、松戸市が市内全小・中学校で整備している高速大容量の通信環境を活用し、低学年で進めている英語教育「ジョリーフォニックス」を中・高学年でも学べるように、校内でライブ配信。同じ市内でも、それぞれの学校のアイデア次第で可能性は広がり、先進的な授業へとつながっている。

SPECIAL FEATURE

学校教育の先進的な取り組みを実施  
注目せずにはいられない松戸市の教育とは?



日本語と英語両分野から学ぶ言語活用科

「言語活用科<sup>※1</sup>」。聞き慣れないこの松戸市独自の教科では、一体何を学ぶのか?小学1年生から中学3年生まで、市内全校で一貫して行っているこの授業。日本語と英語両分野からの学びを通して、論理的・批判的思考力やコミュニケーション能力を身につける取り組みだ。小さい頃から言葉の教育に触れることで、グローバル化する社会で活躍できる力を身につけていく。

※1文部科学省から市内全小中学校が教育課程特例校の指定を受け、「言語活用科」を設定



アルファベットと音の関係を楽しく学ぶ「ジョリーフォニックス」。松戸市では1年生から取り入れ、英語学習の基盤を作っている。

# 松戸って 身近で便利な街

Point  
Check!

施設やインフラが  
こんなに整備  
されているんだね。

Point

松戸市内に公立小・中学校は  
65校あるよ!

Point

市内で運行している鉄道は  
6路線23駅あって利便性が高いんだ。



Point

都心・空港まで松戸駅から  
1時間以内で行けるよ。

Point

松戸市内には約400の公園があって  
自然が多く残されているんだよ。

Point

市民活動が盛んな松戸市には  
市民センターがたくさんあるよ。

(※)東部支所は2021年12月に東松戸駅近くに移転予定

## 子育て COLUMN

### この笑顔を守りたい。優しさに包まれた、しあわせな子育ての日々。

ある日の図書館。目を輝かせながら絵本の世界を楽しむ男の子と、その姿を優しく見つめるご両親。微笑ましい休日のひとコマだ。

夫の転勤を機にこのファミリーが松戸市に転居してきたのは、2018年。それは、お子さんの誕生と重なる時期だった。「親戚も知人もいない、知らない土地へ引っ越して初めての育児をしていくことに不安があり、転居先を決めるにあたっては色々情報を集めました」。その中でご夫妻は、松戸市には医療をはじめ子育てに関わる様々な支援制度があり、保育や教育環境等も充実していることを知った。さらに、子育て世代の満足度ランキングでの高評価も安心材料になり、松戸市を選んだそう。

松戸市に来てからは、乳幼児とその保護者のための施設「おやこDE広場」をよく利用するようになった。「スタッフやママさんたちと親しくなったり、助産師さんに育児相談ができる機会

もあり、初めての育児に対する不安感もやわらぎました」。パパサークルにも積極的に参加しており、「父親が育児に参画する大切さを実感できる良い機会になっています」と充実した表情だ。

お子さんも2歳になり、これまでを振り返ってご夫妻は「松戸の人の温かさをたくさん感じています。一生懸命歩く息子に『がんばれ!』と声をかけてくれたり、地域全体が温かい目で見守ってくれていると感じます」と思いやりに感謝。安心して子育てをするためには、親も子ども穏やかな心でいられる場所と、不安な時や困った時に手を差し伸べ寄り添ってくれる人や場所が必要だ。ひとつのファミリーの幸せのかたちを通して、あらためて子育て環境の重要性を感じた。「これからは、松戸市の豊かな自然と触れ合うために、息子とたくさん外遊びを楽しもうと思います」と語るご両親。その真ん中で男の子が見せる満面の笑みが、ひととき輝いていた。



# MATSUDO COUPLES 01

玉井 亜久里 さん

AGURI TAMAI

1990年生まれ。松戸市出身。  
公務員として都内に勤務。  
高校時代は野球部で活躍、今もスポーツやキャンプを楽しむアウトドア派。休日は近隣のキャンプ場や「21世紀の森と広場」で自然と触れ合っている。

玉井 瑞穂 さん

MIZUHO TAMAI

1991年生まれ。習志野市出身。  
看護師として都内に勤務。  
江戸川の河川敷でピクニックをする身近な外出から海外旅行まで、様々な楽しみを見つけながら、仕事と癒しの理想的なバランスを実現。

松戸に住み東京で働く。これが2人のニューステータス。



2人が出会ったのは宮古島。友人とスキューバダイビングに来ていた亜久里さんとカメラが趣味で星空の撮影に来ていた瑞穂さん。話してみると、実は2人とも千葉県民で同じ高校の1学年違いだったという、ドラマのような展開が始まりだった。

2人が結婚したのは2021年5月。当初は勤務先がある都内に住まいを探したが、色々検討するうちに「やっぱり松戸がいいね」となった。その理由は、まず交通の利便性。電車の路線も多く都内への通勤がスムーズなこと、それに、高速道路も通っているからスノーボードにも行きやすい。旅行好きな2人にとって、羽田空港や成田空港が近いことも都合がいい。

2つ目の理由は子育て環境。「松戸市は共働きの子育て支援がしっかりしていて、待機児童もゼロだと聞きました。私も看護師の仕事は一生続けたいので、松戸市の子育て環境には期待しています」。「松戸市には身近に豊かな自然があります。僕も子どもの頃から土や水、草や生き物と触れ合ってきたので、子どもができたなら一緒に遊びたいですね」。

東京で働く「オン」と松戸でくつろぐ「オフ」の切り替えを大切にする暮らし方。それが2人の生活スタイルだ。「明るく元気に！そして豊かな心を育める家庭を築いていきたいです」と爽やかな亜久里さんと瑞穂さん。若い世代が明るい雰囲気をつくり、そこに人が集まる。新しい松戸の都合のいい暮らしに、2人は溶け込んでいる。

# MATSUDO

カップルに聞く、松戸の魅力。

この人と、この街で生きていく。未来を一緒につくっていく。それはとても幸せなことだ。だから、様々な背景をもつ4組のカップルに聞いてみることにした。松戸市で暮らす理由は？この街の魅力って？見えてきた松戸市が愛される理由。そこには、それぞれが選んだ幸せのかたちがあった。



# COUPLES

松戸市は、性別を問わずパートナーシップの関係にある2人の思いを尊重し、多様性を認め合い共生する地域社会の実現を目指して、2020年11月から「松戸市パートナーシップ宣誓制度」をスタートさせた。この制度で変わったこととは何か、2組のカップルに聞いてみた。

でくさんの転職などを機にルームシェアを始めた2人。住まいを松戸市に決めた理由は「都心に近いのに比較的家賃が抑えられ、アクセスも良く暮らしやすい」から。

都会的な発展をする一方で、市内のあちこちに豊かな自然環境が残っていることも松戸市の魅力だ。2人は「松戸は都心に近く便利な反面、お気に入りの散歩コースもあって、都会的な所と自然に恵まれた所のバランスがいい」と言う。

「パートナーシップ宣誓制度があることは、私たちにとって心強いです。この制度がステップになって、またひとつ先に進めたなという思いがあります。法律婚ではないですが、家族や友人に「結婚したよ」と言えるようになりました」とエイトさん。子どもの頃に自分自身が性的少数者であることを自覚。周囲に話すと、病気でもないのに「いづれ治るよ」と言われたという。こうして自身が悩んだ経験を踏まえ「このような制度をきっかけとして、LGBTQについての認識が広がっていくことを期待しています」と、これから多様性の時代を生きる子どもたちにも思いを寄せた。

都会的な部分と自然環境のバランスが心地いい。



## MATSUDO COUPLES 02

でくさん  
DEKU

1990年生まれ。千葉県出身。都内に勤務する会社員。松戸の豊かな自然が好きで、「本土寺(ほんどじ)」の紫陽花や桜の季節の散歩などを楽しんでいる。

エイトさん  
EITO

1990年生まれ。千葉県出身。都内に勤務する会社員。最近市内にオープンしたショッピングモールにできた映画館がお気に入り。「音響がいいですよ」と話す映画好き。

## MATSUDO COUPLES 03

ぐっさん  
GUSSAN

1985年生まれ。千葉県外出身。千葉県内に勤務する会社員。アットホームなお店で人の優しさに触れたり、日々の暮らしの中にも楽しみを見つける、松戸で過ごすゆとりある時間が好き。

しゅうさん  
SHU

1988年生まれ。千葉県外出身。千葉県内に勤務する会社員。令和らしい新しさの中に、昭和っぽい雰囲気がある松戸が好き。昔ながらの小さなお店を見つけるのも楽しみ。

ぐっさんとしゅうさんは、パートナーシップ宣誓制度があることが松戸市に住み続ける理由になっているという。

「私たちにとってこの制度の意味はとても大きいです。少し重い言い方ですが、命綱と言えるかもしれません」。そう語るのには理由があった。ある日、外出先で突然体調を崩したしゅうさんが救急車で運ばれた。しかし、家族ではないぐっさんは、どこの病院に運ばれたか教えてもらえなかったという。「この制度ができたことで、万一の時も松戸市内の病院からも連絡をもらえると嬉しいです、他にも夫婦や家族と同等のサービスを受けられるものもあります。このように市が認めてくれる制度があることは、大きな安心感につながっています」さらに今後、この制度が友人・知人との間でも適用されるものになれば、一人暮らしの人も安心だと思うので、将来的には活用の幅が広がって、人と人とのつながりの証明になればいいなと思います」。

あたたかな人情が今も残る松戸市で、数々の思いやりに触れてきたという2人。「ここは人間同士が支え合って生きていける街ですね」と柔らかな笑顔で話してくれた。

### 『松戸市パートナーシップ宣誓制度』

パートナーシップ関係にある方々の宣誓を市が尊重し、宣誓証明書や宣誓証明カードを交付して公的に証明するもの。法的な効力は生じないが、LGBTQなどの性的少数者や事実婚の方々が感じている生きづらさの軽減・解消と、自分らしくいきいきとした生活が送れるよう応援し、多様性を認め合う社会の実現を目指している。

多様性を認め合う新しい感覚と人情が共存する街。



## だから、やさしい

「まつど市民活動サポートセンター」で  
地域のために何かしたい!人をサポート・応援

地域のために何かしたいけど、何をしたらいいのかな?どこに相談したらいいんだらう?そんな時に寄り添ってくれるのが「まつど市民活動サポートセンター」。様々な情報を教えてくれたり、同じ目標を持っている人と人をつなげてくれたり…。自分がやりたいことをどう実現できるか、同センターは、その答えを見つける手助けをしてくれる。

困った時は、まずサポセンに!



芽でるくん

Check



まつど市民活動  
サポートセンター

## だから、たのしい

「まつど地域活躍塾」で出会った仲間と一緒にまちづくり

自分が暮らす街をより暮らしやすい場所にするため、かつての経験やスキルを活かして地域で活躍していくきっかけを見つける「まつど地域活躍塾」。受講のきっかけは様々。同塾のOB・OGは、市内の団体などで活躍の場を広げている。地域で活動することで新たなつながりができたり、自身の興味・関心を深めたり…。人生100年時代と言われる今、「第2・第3の人生」のきっかけづくりに役立っている。自分の街をより良くするために活躍する場所やそのためのサポートが充実する街。いくつになっても自身が輝ける場が、松戸にはある。

やりたいことを実現するための制度も充実。  
市民活動への助成金もあり、やる気を後押し!



芽るちゃん

Check



まつど地域活躍塾

## だから、つながる

「まつどのこもりかた。編集部」と共に盛り上げる

若者目線でHPやSNSに松戸の魅力を発信し続ける「まつどのこもりかた。編集部」。松戸愛の強い編集部の若者が立ち上げたWebサイト「まつどのこもりかた。」では、松戸にゆかりのある女性をモデルに、1人でもフラッと入れる市内のおしゃれなお店などを紹介。地元の人々との触れ合いやトークを通じて、松戸に暮らす人のあたたかさや地域のつながり、住みやすさが感じられるサイトになっている。

「まつどのこもりかた。編集部」と松戸市シティプロモーション担当室が協働して松戸が暮らしやすい街であることをPRするとともに、コロナ禍でも松戸を支え続けるお店などを応援し、豊かで活力のある街の実現を目指し、今日も活動している。



まつどのこもりかた。



松戸市  
シティプロモーション  
担当室



まつどのこもりかた。

Check



まつどのこもりかた。

## だから、ひろがる

事業提案制度により松戸市と協働でやりたいことを実現!  
「松戸市協働事業提案制度」で可能性が広がる

市民活動団体や事業者の発想や手法を活かし、提案者と市が事業の企画から実施までを協力して行うモデル事業を毎年募集している。それが、松戸市の協働事業提案制度だ。

Check



松戸市協働事業  
提案制度



協働のまちづくり  
Twitter

## MATSUDO COUPLES 04

気持ちがほっとする、あたたかなつながりがある。



堀井 英夫 さん

HIDEO HORII

1954年生まれ。松戸市出身。  
コミュニティカフェ「ChoshiYa」オーナー。  
前職はコンピューター関連の専門職だが、  
歴史にも造詣が深く「金ケ作歴史同好会」  
の活動を通して地域の魅力を発信している。

堀井 美奈子 さん

MINAKO HORII

1959年生まれ。松戸市出身。  
「ほっとする街を考える会Kinari」代表。  
高齢者福祉の仕事の続けながら、週末は  
「ほっとカフェ」を運営。「誰も来なくても必  
ず開けています」と寄り添う気持ちをいつ  
も大切にしている。

人と人が緩やかにつながる居場所づくりのために、いきいきと活躍するご夫妻は「地域の縁側みたいな事をやっているんですよ」と優しい笑顔を見せる。英夫さんの定年を機に2017年より地域貢献をしたいと始めたのが、地域の市民活動などの拠点をレンタルシェアスペースとして提供するコミュニティカフェ「ChoshiYa」。そして誰もが自分らしく、安心して暮らしている街を目指し、地域のコミュニケーションのハブとして美奈子さんが始めたのが、拠点づくりに貢献する市民活動「ほっとする街を考える会Kinari」だ。

松戸市では、市民活動をサポートする様々な事業が展開され、講座なども充実し助成金の制度もあることから、最初の一步が踏み出しやすい環境が整っている。ご夫妻も「まつど市民活動サポートセンター」を利用して活動を開始した。この活動を通して、仕事やプライベートとはまた違う交流が生まれたり、地域の自然や歴史の魅力を広く発信できる機会が増えたことも喜びであり、様々な場面で日々やりがいを感じているという。

「年齢や職種も違う多様な人が集い、新たなネットワークも生まれています。地域の人も新しくこの地に来た人も、若者もお年寄りもみんながつながり、おたがいさま」の思いで助け合える環境を築いていきたいですね」と今後の活動にも意欲的だ。松戸市が誰もが生きがいを持ち元気に安心して暮らしている街である理由は、こうした豊かな人間関係が築けるからなのだろう。





Mism / 04



Mism / 03



Mism / 02



オリジナルリーフレットカード



Mism / 06



Mism / 05



Mism / 01

## 個性が光るクリエイティブな街

～官民連携による取り組み～

松戸市の玄関口である松戸駅は、古くは水戸街道の宿場町として栄え、近年では東京のベッドタウンとして多くの若い世代や子育て世代でにぎわっている。改修が続く松戸駅のペデストリアンデッキは、洗練された都市のイメージが広がる一方、少し歩くと、神社や歴史の流れを感じさせる建物、江戸川の土手など、レトロな街並みが続く。新旧の魅力が入り混じるこの街で、おしゃれな街に生まれ変わるための動きが続いている。

松戸市では、2018年に「おしゃれな街まつど検討会」を立ち上げ、翌年には松戸を舞台に活動するまちづくり会社とともに、松戸ならではの「おしゃれな街」を目指した仕組みづくりを調査・研究する勉強会を始めた。この勉強会には、松戸駅周辺で活躍する若き店舗経営者達も集まった。4.5坪の立ち飲みカウンターバル、

床屋の2FをDIYで改装したベーグル店、創業75年の老舗スポーツ店、明治時代からルーツを持つ日用品セレクトショップ、いずれも若い層を中心に話題の店舗で、店主達は自分たちの活動と事業によって松戸をおもしろくさせたいという思いに満ち溢れていた。新型コロナウイルスの影響でイベント活動が制限される中、各店舗共通デザインのオリジナルリーフレットカードの作成、オリジナルデザイングッズの開発や商品の取り扱いの連携など、アイデアは途切れることを知らない。離れた店舗同士でも共に活動できる仕組みを確立すべく市と協議を進めた結果、2021年には、「アソシエーション型商店会『Mism』」の立ち上げに成功した。若きクリエイターによる出店はこの商店会に限らず、市内全域に及んでおり、市でもこうした出店に補助金を出すなど、活動を支援している。モノや情報にあふれる時代だからこそ、店主独自のこだわりや思いが人々を魅了する。松戸が考えるおしゃれな街とは、自分たちの創意工夫によって活用する。という人々の生き方そのものであり、松戸が大事にしてきた人と人との絆や新しい文化を受け入れる寛容性があるからこそ花開く、松戸独自の文化である。若きクリエイターたちの活躍で、個性が光るクリエイティブな街まつどへ進化が続いている。

# 松戸自慢

Matsumoto Encyclopedia

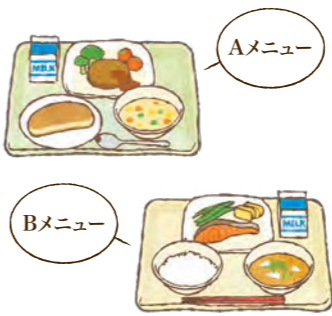
【第一版】



市民の皆さんから「松戸の自慢」を募集したよ。

## 【学校給食選択制(公立中学校)】がっしうきゅうしよ、せんたくせい「特色」

1日毎に主食がパンまたは麺のAメニュー、米飯のBメニュー、弁当持参からの選択制が魅力。給食が選べるなんて、なかなかない!?完全自校調理方式により、市内の全校で作られたの温かい給食が食べられるのも自慢。



## 【学校選択制】がっしうきゅうしよ、せんたくせい「特色」

入学する小・中学校が選べる「学校選択制」。市内には45の公立小学校と20の公立中学校があり、指定校区に隣接した徒歩で通学できる範囲で選ぶことができる(抽選の場合あり)。

## 【カヌー大会】かぬーたいかい「行事」

松戸市の江戸川で毎年1月第2日曜日に行われる、早春江戸川の風物詩。千葉県カヌー協会主催のカヌー競技大会、千葉県知事杯争奪クラブ対抗カヌー競技大会は、日本で年明け最初に行われるリバーレースで、カラフルなカヌーが川幅いっぱい並ぶ一斉スタートは圧巻。

## 【さくらまつり】さくらまつり「行事」

常盤平・八柱・六実・国分川など、市内各地で開催されるお祭り。松戸市で育った子どもは必ず行くと行って過言ではない。中でも常盤平さくら通りは、「日本の道100選」に選ばれており、通り沿いに鮮やかに咲く桜は必見。

## 【すぐやる課】すぐやるか「特色」

すぐやる課の発足当初からの理念は「すぐやらなければならぬもの、すぐやり得るものは、すぐにやります」。1969年10月に発足し、以来全国初のすぐやる課として、現在も

## 【ねぎ】ねぎ「特産品」

全国有数のねぎの生産地である松戸市。矢切地区で地域団体商標を取得した「矢切ねぎ」、小金地区の「あじさいねぎ」が有名。矢切ねぎは高級品として多くの料理人に愛されている。地元では、ねぎを扱った絶品の食品も開発されている。



## 【パンの街】ぱんのまち「特色」

市内を歩いていると、いたるところにパン屋があるのも松戸では当たり前の光景。生活に寄り添ったパン屋や人気店も多い。

## 【文化・芸術活動が盛んな街】ぶんかげいじゅつかつどうがさかんなまち「特色」

松戸は幼少期から活躍できる場が多い。市立小金中学校科学部はロボカップ世界大会出場・オンステージ部門1位、県立松戸高校演劇部は全国大会出場経験あり。市内中学・高校の吹奏楽部や合唱部は全国大会で金賞や最優秀賞を受賞するなど、優秀な成績を収めている。中には澄んだ歌声と美しいハーモニーで、紅白歌合戦のコーラスに出演した学校も!

活動し松戸市の誇るべき伝統として継承されている。

## 【千葉大学園芸学部】ちばだいがく、えんげい、がくぶ「施設」

国内初の園芸学部で、現在国内唯一の園芸学部。敷地内には3つの様式(イタリア式、フランス式、イギリス式)の庭園があり、素晴らしい庭園には四季折々の植物が植えられ、見学することもできる。

## 【中学ジャージ生活】ちゅうがく、じやーじせい「特色」

市内の公立中学校では、制服で登校後、校内服(ジャージ)に着替えて過ごし、下校前に制服に着替え帰宅する。学校ごとにジャージのデザインが違い、こだわりの詰まったジャージを見比べるのも楽しい。

## 【仁王様の股ぐり】におうさまのまたぐり「行事」

運慶の作と伝えられる、国重要文化財指定・木造金剛力士立像の股の間をくぐると無病息災が約束されるという、江戸時代から続く伝統行事。松戸市馬橋にある萬満寺の「不動尊大祭」で行われる。



## 【マッドドン】まっどどん「怪獣」

謎の水生怪獣「マッドドン」。1972年、市付近の江戸川で未確認生物が目撃され、マッドドン伝説が始まる。頭が丸く、ヌメつとした体をし、ヒゲと2本の牙が生え、可愛らしい姿をしているという。この特徴、あの動物に似ているという噂あり。



## 【松戸ナンバー(自動車のご当地ナンバープレート)】まつどななば「特色」

2020年5月から図柄入りご当地ナンバーを導入。松戸の代表的な観光名所である、さくら通りの「さくら」、本土寺の「あじさい」、「矢切の渡し」が入った松戸市の自然や風景の魅力が伝わるデザイン。



## 【野球とソフトが盛んな街】やきゅうとそふとがさかんなまち「特色」

専修大学松戸高校が2015年夏、2021年春・夏連続で甲子園に出場。定時制の軟式野球では、県立松



## 【流鉄流山線】りゅうてつ、ながれやせん「鉄道」

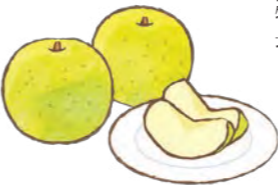
2両編成、全6駅のレトロな列車。1本1本違うカラフルな車体で、それぞれに愛称がある。ピンクの「さくら」号にはハートのつり革が。現在でも切符のみの昔懐かしいローカル線で、本誌の表紙にもなっている。

戸南高校が2021年初の全国大会へ、松戸市立第四中学校が2021年全国日本少年軟式野球大会全国大会に出場するなど、とにかく野球が盛んな街。ソフトボールも県内随一の競技力を誇り、特に小学生は毎年のように全国大会に出場。野球とソフトボールが身近な環境から、松戸市出身のプロ野球選手が多く輩出されている。



## 【二十世紀梨】にじっせいきなし「特産品」

日本全国1位の梨の生産量を誇る千葉県。その中でも、「二十世紀梨」を生んだのが松戸市。1888年に偶然発見されたことから、その歴史が始まった。黄緑色の二十世紀梨は、ジュシーで爽やかな味わいとシャリシャリした食感が特長。



【21世紀の森と広場】にじゅういつせいきのもりとひろば「施設」  
東京ドーム約11個分の広さを持つ緑豊かな公園内では、山・林・池など様々な自然に触れ合える。2021年7月には、新たな遊び空間「あそびのすみか」がオープンし、オリジナルの3つの大型遊具が子供たちの注目の場となっている。





## ドミニカ共和国とルーマニアの ホストタウン・松戸市

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の参加国と相互交流を図る自治体として「ドミニカ共和国」と「ルーマニア」のホストタウンに登録されている松戸市は、様々な分野で両国と交流を深めてきた。その集大成として、東京2020大会に向けてドミニカ共和国はテコンドー、ルーマニアは陸上競技の選手・関係者総勢15名（ドミニカ共和国6名、ルーマニア9名）が松戸市を訪れ、市内で事前キャンプを実施。

ドミニカ共和国テコンドー選手団は、柿ノ木公園体育館で4日間事前キャンプを行い、日本の気候や時差に体を慣らしながら徐々に強度を上げ、本番に向けた最終調整が行われた。

ルーマニア選手団は、走幅跳・やり投げ・砲丸投げ・競歩の選手が運動公園陸上競技場や柿ノ木公園体育館・ユーカーリ交通公園・21世紀の森と広場でコンディショニングとトレーニングを16日間に行ったり、ホストタウンからのおもてなしとして、感染症対策を施した歓迎セレモニーを開催。コロナ禍で選手・関係者の行動制限や感染症対策など厳しい制約の中、両国ともオンラインで松戸市長や市内学生、在日各国の大使や大使秘書などと交流し、互いにエールを送り合った。

松戸市の皆さんのおもてなし溢れる対応に感謝を伝えたいです。このパンデミックが終わったら、またお会いできれば嬉しいです。



Dominican Republic



本土寺での交流の様子(2018年:左)と事前キャンプでの練習風景(2021年:右)

おもてなしをありがとうございます。松戸市に来ることができ、感謝しています。



Romania



七草マラソンでの交流の様子(2019年:左)と事前キャンプでの集合写真(2021年:右)



夢を諦めずに  
挑戦し続けろ先に

## まつど 輝人伝

東京オリンピック レスリング女子50kg級 金メダリスト

### 須崎 優衣 選手

すさき ゆい / 1999年6月30日生まれ  
松戸市出身(松戸市立六実第三小学校卒、松戸市立六実中学校出身)  
JOCエリートアカデミー\*修了  
現在早稲田大学在学中  
\*日本オリンピック委員会が有望選手にエリート教育を施す全寮制の育成事業



小学1年生で自身の運命を変える「レスリング」に巡り合った1人の少女。レスリングを始めて父と姉の影響を受け競技を始める。と瞬く間に上達し、全国大会で優勝を重ね、次第に注目を集め始めた。この頃から周囲に「オリンピックで金メダルを獲得」と宣言していたこの少女こそ、東京オリンピック金メダリスト・須崎優衣選手だ。中学2年生のときにJOCエリートアカデミーに入校。国内外の大会で全勝し、中学生で唯一東京オリンピック強化選手に選出された。高校生になってもその快進撃は止まらず、大学進学後も数多くの大会を制してきた。2017、2018年の世界選手権で連覇した彼女だが、オリンピック選考がかかる2019年の

世界選手権では国内選考会で敗退。「人生の一番のどん底に落ちた」と当時を振り返った彼女は言う。一時はオリンピック出場への道が途絶えかけたが、2019年、世界選手権で女子50kg級の日本勢がメダルを逃し、代表争いは振り出しへ。同年12月の全日本選手権で優勝し、東京オリンピックアジア予選の出場権を獲得。この予選において、4戦全勝で東京オリンピック代表を勝ち取ったのだ。開会式では日本選手団の旗手を務め、試合では全4試合で無失点のテクニカルオール勝ちを収めた。圧倒的な強さを見せつけ、見事に有言実行を果たし、多くの感動を届けてくれた。

### WINNING COMMENT

たくさんの応援ありがとうございました。レスリングは地元千葉県の幕張メッセにて試合が行われたので、緊張感も幾分和らぎ、日頃の練習の成果が発揮できたのではないかと思います。私の原点である松戸レスリングでは、基礎をはじめ多くの事を学びました。たくさんの方々に支えられて、金メダルを獲得することができました。コロナ禍での開催にご尽力頂いた皆様に感謝致します。ありがとうございました。 須崎 優衣



(C)AFP=時事



陸上男子走高跳  
**戸邊 直人 選手**  
となべ なおと / 専修大学松戸高校卒

予選を見事に突破し、日本選手としてはミュンヘン五輪以来49年ぶりの決勝進出を果たした戸邊選手。惜しくも入賞はならなかったが、松戸ゆかりの選手が歴史に名を刻んだ。

提供 / 日本航空



レスリング女子フリースタイル76kg級  
**皆川 博恵 選手**  
みながわ ひろえ / 松戸市在住

3位決定戦に進出し、レスリング女子最重量級では北京五輪以来13年ぶりのメダルを賭けて試合に臨んだ皆川選手。惜しくもメダルには及ばなかったが、大怪我を乗り越えての挑戦は多くの人に勇気を与えてくれた。

©クリナップ



ささき やすひろ  
**佐々木 康裕 選手**  
5人制サッカー(ブラインドサッカー)男子  
ファンタス千葉SSC  
松戸ウォーリアーズ所属



かとう まさひこ  
**加藤 昌彦 選手**  
シッティングバレーボール 男子  
松戸市出身  
(第五中学校卒)



はが まさき  
**羽賀 理之 選手**  
車いすラグビー 男女混合  
松戸市出身(第三中学校、専修大学松戸高校卒)、2016年市民栄誉賞受賞(リオパラリンピック銅メダリスト)



おおやま こうじ  
**大山 晃司 選手**  
アーチェリー男子(W1)  
松戸市出身  
(牧野原小学校、専修大学松戸中学、高校卒)



たけうち のぞみ  
**竹内 望 選手**  
卓球 女子団体(WT9-10)  
松戸市内在住



たけうち たけし  
**竹守 彪 選手**  
卓球 男子シングルス(MS11)  
松戸市内在住  
(粟ヶ沢中学校卒)



たかだ ちあき  
**高田 千明 選手**  
陸上女子走幅跳(T11)  
聖徳大学 客員教授

\*パラリンピックは9月5日まで開催。

### 松戸市ゆかりの パラリンピック出場選手



昭武が好んで座っていた表座敷の縁側に腰掛ける板垣さん



### 俳優の板垣李光人さんが戸定邸を訪問

7月3日が徳川昭武の命日(没後111年)であることから、大河ドラマ『青天を衝け』で徳川昭武を演じる板垣李光人さんの戸定邸訪問が実現。板垣さんが訪れた7月5日は、戸定邸が国の重要文化財に指定された日(2006年7月5日)でもある。

戸定歴史館に展示されている昭武が着用した陣羽織(複製)を鑑賞後、戸定邸で実際に袖を通し、兄・徳川慶喜をイメージした甲冑と並んで記念撮影。時代と姿を変えて兄弟の対面が実現した。

板垣 李光人(いたがきりひと)

2002年1月28日生まれ。山梨県出身。11歳で俳優デビューし、ドラマ『仮面ライダーゴースト』映画『約束のネバーランド』で話題に。大河ドラマは、2015年放送の『花燃ゆ』に続き『青天を衝け』で2度目の出演。



名

勝  
散歩

「めいしょうさんぽ」

国指定重要文化財

### 戸定邸 (とじょうてい)

[開館時間]

9時30分～17時(入館は16時30分まで)

[休館日]

月曜(祝・休日の場合は閉館し、翌平日休館)

[入館料]

共通券一般320円など

個別券一般250円(戸定邸)、150円(歴史館)など

[お問い合わせ]

☎047-362-2050

[住所]

〒271-0092

千葉県松戸市松戸714番地の1



戸定歴史館

### 戸定邸で徳川昭武が過ごした空間・雰囲気を感じる

徳川昭武が建てた戸定邸は、明治時代の徳川家の邸宅として唯一公開されている貴重な文化財だ。最後の将軍・徳川慶喜の弟である昭武。1867年のパリ万博へ将軍の名代として派遣され、海外メディアからは「プリンス・トクガワ」と呼ばれた人物である。29歳で隠居し戸定邸へ移り住み、兄・慶喜や気の合う親族たちと趣味である写真や狩猟などを楽しんだ。

棟ごとに使い分けられ、建物と庭が一体となるよう設計されている戸定邸。国指定名勝の旧徳川昭武庭園は、西洋文化を体験した昭武ならではの感性が反映され、洋風技法が取り入れられている。各部屋からの眺めも考えられており、表座敷棟や東屋庭園からは江戸川や富士山を望むことができる。

かつて徳川昭武が過ごした戸定邸。彼が愛したこの空間と雰囲気を感じたい。